▼治兵衛と小春（六巻）

帝キネ芦屋時代映畫

脚色者　小國狂二氏
監督者　佐藤樹一路氏
撮影者　鍋本榮一郎氏
主演者　松本田三郎氏
　　千種香子嬢

紹介

雁治郎丈が得意の出しものとして知られて居る「河治」でお馴染みの小春治兵衛の心中譚を映畫化したものであるが歌舞伎の舞臺でこそ其存在を許さるるもののこうして映畫化して見ると現今の觀客には此物語に於ける主人公の氣持が倒底領かるる譯はない。それに脚色も近松の「心中天網島」の梗概を簡單に綴つたに止り、何等突込んだ筆致を見せて居ないから尚更その感が深い。然し總觀すれば先の「梅川忠兵衛」より下司でなく近松ものらしい味が漂つて居たので好意が持てた。佐藤樹一路氏の監督は亂闘など全然ない此物語をよく持たして居たが此作品でも人物の扱ひが何うも開却されて居る樣に思はれた。氏に今後望む點は此方面の研究をして欲しいと切に感じた。松本田三郎氏の治兵衛「梅川忠兵衛」以來雁治郎張りの役どころで納つて居るがこうした役柄の方が此人には向くし忠兵衛の時より著しくやはらかい味が出て來た丈でも領けると云ふものである。千種香子嬢の小春や松枝鶴子嬢のおさんは餘り振はなかつた。

——山本綠葉——

興行價値——此映畫の同書に紅燈情話さしてあつた——地下の近松は苦笑するだらうが、現今の客には解りやすくて好いだらう。（一月九日大阪芦邊劇場その他帝キネ系主要館封切）